

# 総合診療科専攻医研修カリキュラム

総合診療科では、診療所勤務や開業を想定した家庭医を目指す方、病院勤務を想定した総合内科医を目指す方に最適な研修プログラムを提供します。また専門診療科を決めかねている方、専門診療科は決まっているが専門に進む前に内科全般の勉強をしたい方も受け入れます。

また平成27年度からは、従来の研修カリキュラムに加えて、日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療後期研修プログラムがスタートします。愛媛県立中央病院と地域中核病院、国保診療所などが連携して研修の場を提供し、学会認定の家庭医療専門医資格取得を目指します。

## A. 従来研修カリキュラム

### 1 研修目標

都市部からへき地まで、大規模病院から診療所まで、あらゆる医療の現場で活躍できる幅広い臨床能力を有し、身体面だけでなく心理的、社会的側面にも配慮しつつ、必要に応じて、専門医や他職種と連携しながら（チーム医療）、治療のみならず、予防・リハビリ・介護・福祉まで視野に入れた、全人的医療を実践できる総合医を目指す。

専攻医は、原則として指導医の指導のもとで研修を行い、研修終了時には、以下の項目について、自己評価ならびに指導医による評価を行う。

- 1) 総合診療科医、家庭医に必要な基本的知識、技能、態度を身につける。
- 2) 総合診療の理念を理解する。
- 3) 地域医療における地域包括ケアの理念を理解する。
- 4) 医師患者関係の重要性を認識し、患者中心の医療を理解し実践できる。
- 5) 包括的に患者を理解するための時系列分析法を修得する。
- 6) Evidence-Based Medicine (EBM) と Narrative-Based Medicine の基本を理解し実践できる。
- 7) 特定臓器疾患に偏らず、患者のニーズに応じて心理・社会的な問題にも対処できる。
- 8) Common disease に対する、EBM に基づいた診断・治療・予防・教育の方法を理解し患者のために実践できる。
- 9) 能力を超える問題に対しては適切に判断し、必要に応じて専門医や他の医療職の支援を得ながら、患者をマネジメントすることができる。
- 10) 外来診療の特性を理解し、慢性疾患の管理も含めて、適切な外来診療を実践できる。
- 11) 救急医療の特性を理解し、救急患者に適切に対処できる。
- 12) 女性医療、性差医療について理解し、診療に生かすことができる。
- 13) 東洋医学（鍼灸と漢方）の基本を理解し、診療に活用できる。
- 14) チーム医療の重要性を理解し、実践できる。
- 15) 病診連携、病々連携および保健・福祉との連携の重要性を理解し実践できる。
- 16) 研修医および学生に対して、学習者中心の教育が実践できる。
- 17) 内科学会総合内科専門医、プライマリケア学会専門医の資格取得を目指す。

### 2 研修内容

- 1) 外来診療：総合診療部外来において、少なくとも週1日ずつの初診外来、再診外来を担当する。
- 2) 入院診療：チーム医療の一員として入院患者を担当する。
- 3) 救急診療：救急部と連携し救急医療を担当する。
- 4) 総合医・家庭医に必要な臨床技能の習得：専門科の協力の下、曜日を決めた研修あるいは3～6ヶ月のローテーション等を組み合わせ習得に努める。  
・腹部エコー、心エコー、上部・下部内視鏡、気管支鏡、胃透視、注腸等の検査手技

- ・ 外科、整形外科、形成外科、眼科、耳鼻科、皮膚科等のプライマリケアに必要な診療技法
- 5) 地域医療・へき地医療：希望により地域の病院や診療所での研修も考慮する。能力を認めたものにはへき地医療の代診支援に参加していただきたい（強制はしない）。
- 6) 個々の希望に十分配慮し、他科とも調整のうえスケジュールを決定します。

週間スケジュール（例）

	月	火	水	木	金
7:30				総合カンファレンス	
8:00	入院カンファレンス				
8:30	上部内視鏡	初診外来	腹部エコー	胃透視	皮膚科外来研修
13:30	病棟	心エコー	病棟	病棟	再診外来
16:00	外来カンファレンス病棟回診	外来カンファレンス	外来カンファレンス	外来カンファレンス勉強会	外来カンファレンス病棟回診
17:00			内科カンファレンス		

専門科のカンファレンスには積極的に参加する

他科ローテート：（例）呼吸器内科

	月	火	水	木	金
7:30				総合カンファレンス	
8:00	入院カンファレンス				
8:30	上部内規鏡	初診外来	腹部エコー	呼吸器科	呼吸器科
13:30	呼吸器科	呼吸器科	呼吸器科	呼吸器科	再診外来
16:00		外来カンファレンス			外来カンファレンス病棟回診
17:00			内科カンファレンス		

## B. 家庭医療後期研修カリキュラム

### 1 研修目標

大病院における臨床経験と、地域中核病院、国保診療所等における臨床経験を重ねることにより、へき地診療所等においても一人で責任を持って、なおかつ関係各方面と連携しながら診療できるような医師を目指す。また、病院総合診療医（ホスピタリスト）としても、開業かかりつけ医（ホームドクター）としても診療できるような医師を目指す。日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療専門医資格の取得を目指す。

### 2 研修内容

愛媛県立中央病院、西予市立西予市民病院、西予市立野村病院、松野町国保中央診療所、等からなる医療機関群で、総合診療、内科、小児科、救急科、その他の研修を行う。

愛媛県立中央病院総合診療科においては、外来初診患者の診療、一次～二次救急患者の診療、入院患者の診療などを幅広く経験し、地域医療連携（病診連携、病病連携）やへき地医療支援（代診）についても経験する。

小児科においては、外来診療、一次～三次救急、入院診療等について経験する。

救急科では、二次～三次救急の外来～入院についての診療を経験し、他科や他医療機関との連携も経験する。ドクターカーやドクターヘリ、災害医療の経験も可能である。

内科、その他診療科においては、各科の専門的な診療について、特に外来診療を中心に経験する。内視鏡検査や超音波検査の研修も行う。希望により、漢方・鍼灸治療の研修も可能である。

国保診療所と市立病院では、かかりつけ主治医としての診療を経験する。出張診療や訪問診療、保健活動や介護保険施設の嘱託医・協力医として、園医・校医として、地域の様々な診療に携わりながら研修する。

#### 研修プログラムの全体構成

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (市立病院・国保診療所) 9カ月		総合診療専門研修Ⅱ (愛媛県立中央病院・市立病院) 9カ月	
	領域別 研修	内科 6カ月	小児科 3カ月	救急科 3カ月

#### モデル的なローテーション例

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	内科	内科	内科	内科	内科	内科	小児科	小児科	小児科	救急	救急	救急
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	その他	その他	その他
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	その他	その他	その他

※詳細については個別に相談。身分・給与については、研修先で変動があり得る。